

## 2015 年度上半期 ANA/JAL 決算比較(その 2)

この度 ANA と JAL から公表された資料をもとに、両社の収益性などを比較してみた。  
(計算過程の関係で、各数値の末尾が公表値と一致しない箇所がある。)

### 1. 国内旅客の状況

両社ともに供給量微減、搭乗率向上、収入単価上昇、収入は増加。

#### ① ANA ;

- 1) 北陸新幹線開業の影響（小松・富山路線の旅客数▲36 万人）を強く受けて、自社便旅客数は減少、中堅 3 社や IBEX とのコードシェア旅客数（推定）を加えても、国内線旅客数は前年を下回った（▲12 万人）。  
しかし長距離路線（那覇、石垣線等）の構成割合増で、実質的な事業規模を表わす旅客<sup>キロ</sup>では前年を上回った（+1%）。
- 2) コードシェア便の旅客数（推定）は前年比+11%の 212 万人となり、国内線旅客の 10%を占めるまでになった。  
このほか傘下の LCC（バニラエア）の旅客数は大幅に増加し、これも含めた総旅客数では前年を上回っている。
- 3) 供給量微減（座席<sup>キロ</sup>▲1%）に対して旅客<sup>キロ</sup>は増加（+1%）、この結果搭乗率は 1.2 ポイント上昇して 64.1%となった。
- 4) また旅客単価が+3%上昇したこともあって、国内旅客収入は前年より+74 億円増の 3,532 億円となった。

#### ② JAL ;

- 1) 北陸新幹線開業の影響（小松線の旅客数▲12 万人）を、他の路線の需要増が補って、国内線旅客数は+13 万人となった。  
FDA とのコードシェア便の旅客数は 8 万人（推定）で、総旅客数の 0.5%。
- 2) 搭乗率は更に上昇して 66.8%となった。ANA を 2.7 ポイント上回っている。  
これには機材の小型化も関係していると考えられる。（※）  
また旅客単価も+3%上昇。  
この結果国内旅客収入は+85 億円の 2,586 億円となった。  
（※）機材の小型化（ボーイング 737 の割合増）は、総じて座席コストの低減と高搭乗率の達成をもたらす。他方では中大型機で運航する ANA に比べて旅客シェアの低下に繋がりがちでもある。

《図表1》 国内線旅客状況の比較

	ANA			JAL		
	2014上	2015上	差	2014上	2015上	差
	千人	千人	千人	千人	千人	千人
小松・富山	852	490	-362	389	271	-118
他の路線	18,917	18,941	24	15,494	15,735	241
自社便合計	19,769	19,431	-338	15,883	16,006	123
コートシェア(推定)	1,907	2,120	213	70	77	7
<b>国内線計</b>	<b>21,676</b>	<b>21,551</b>	<b>-125</b>	<b>15,953</b>	<b>16,083</b>	<b>130</b>
(外数) パニラ	363	554	191			

《図表2》 国内旅客指標の比較

		ANA				JAL			
		2014上	2015上	差	率	2014上	2015上	差	率
<b>【国内旅客】</b>									
旅客収入	億円	3,458	3,532	74	102	2,482	2,568	86	103
旅客数	千人	21,676	21,551	-125	99	15,953	16,083	130	101
旅客 <sup>千</sup> *	百万 <sup>千</sup> *	19,294	19,433	139	101	12,139	12,206	67	101
座席 <sup>千</sup> *	百万 <sup>千</sup> *	30,647	30,307	-340	99	18,490	18,267	-223	99
搭乗率	%	63.0	64.1	1.2		65.6	66.8	1.2	
旅客単価	円/人	15,953	16,389	436	103	15,558	15,967	409	103

## 2. 国際旅客の状況

両社ともに旅客増、搭乗率向上、収入単価低下（燃油サーチャージ減）、収入は増加。

### ① ANA ;

- 積極的に規模拡大（座席<sup>千</sup>前年比+7%）し、国際旅客収入は JAL を上回るようになった。特に欧州線と中国線では JAL に大きく差をつけている。  
旅客数だけをみれば僅かに JAL を下回るが、ANA は長距離路線の割合が比較的に高く、実質的規模を表わす旅客<sup>千</sup>では JAL を上回っている。  
なお傘下の LCC ; バニラエア（国際線旅客数 34 万人）を含めれば、旅客数でも JAL を上回っている。
- 供給増（座席<sup>千</sup>+7%）に対して旅客<sup>千</sup>は+11%増加し、搭乗率は大幅に向上して 75.9%となった。

燃油サーチャージ減の影響で旅客単価（<sup>千</sup>当り）は低下したが、旅客収入は+239 億円と大幅な増加となった。

### ② JAL ;

- 供給増は小幅（座席<sup>千</sup>+1%）ながら、旅客<sup>千</sup>はそれを大きく上廻って増加（+6%）し、搭乗率は 79.7%まで高まった。これは ANA を 3.8ポイント上回るレベルである。
- 旅客単価は燃油サーチャージ減等で▲5%低下したが、旅客<sup>千</sup>増（+6%）がそれを補い、前年比で増収（+17 億円）を確保した。

《図表 3》 国際旅客指標の比較

		ANA				JAL			
		2014上	2015上	差	率	2014上	2015上	差	率
<b>【国際旅客】</b>									
旅客収入	億円	2,357	2,596	239	110	2,339	2,357	17	101
旅客数	千人	3,591	4,063	471	113	3,895	4,093	198	105
旅客 <sup>千</sup>	百万 <sup>千</sup>	18,026	19,985	1,959	111	18,186	19,310	1,124	106
座席 <sup>千</sup>	百万 <sup>千</sup>	24,718	26,334	1,615	107	23,989	24,240	251	101
搭乗率	%	72.9	75.9	3.0	104	75.8	79.7	3.9	105
平均距離		5,019	4,919			4,668	4,717		
旅客 <sup>千</sup> 単価	円/ <sup>千</sup>	13.08	12.99	-0.09	99	12.86	12.20	-0.66	95

《図表4》 国際旅客；路線別比較（推定）

（注）ハワイ線は、JAL では太平洋線に、ANA ではアジア線等に含まれる。

	ANA				JAL				(差)
	2014上	2015上	差	率	2014上	2015上	差	率	ANA-JAL
<b>【国際旅客収入(億円)】</b>		億円	億円	%	億円	億円	億円	%	億円
大太平洋線	783	<b>844</b>	61	108	854	<b>884</b>	30	103	<b>-40</b>
欧州線	507	<b>509</b>	2	100	433	<b>389</b>	<b>-44</b>	90	120
中国線	346	<b>434</b>	87	125	269	<b>271</b>	2	101	163
アジア線等	721	<b>810</b>	89	112	784	<b>813</b>	29	104	<b>-3</b>
収入合計	2,357	<b>2,596</b>	239	110	2,339	<b>2,357</b>	17	101	239
<b>【旅客<sup>千</sup> (百万<sup>千</sup>)】</b>		百万 <sup>千</sup>	百万 <sup>千</sup>	%	百万 <sup>千</sup>	百万 <sup>千</sup>	百万 <sup>千</sup>	%	百万 <sup>千</sup>
大太平洋線	6,615	<b>7,154</b>	539	108	7,440	<b>7,953</b>	513	107	<b>-799</b>
欧州線	3,587	<b>3,737</b>	150	104	3,133	<b>3,014</b>	<b>-119</b>	96	723
中国線	1,821	<b>2,178</b>	358	120	1,196	<b>1,292</b>	96	108	886
アジア線等	6,003	<b>6,915</b>	912	115	6,414	<b>7,049</b>	635	110	<b>-134</b>
座席 <sup>千</sup> 計	18,026	<b>19,985</b>	1,959	111	18,183	<b>19,308</b>	1,125	106	677
<b>【旅客<sup>千</sup>単価(円)】</b>		円	円	%	円	円	円	%	
大太平洋線	11.8	<b>11.8</b>	<b>-0.0</b>	100	11.5	<b>11.1</b>	<b>-0.4</b>	97	
欧州線	14.1	<b>13.6</b>	<b>-0.5</b>	96	13.8	<b>12.9</b>	<b>-0.9</b>	93	
中国線	19.0	<b>19.9</b>	0.9	105	22.5	<b>21.0</b>	<b>-1.5</b>	93	
アジア線等	12.0	<b>11.7</b>	<b>-0.3</b>	97	12.2	<b>11.5</b>	<b>-0.7</b>	94	
旅客単価	13.1	<b>13.0</b>	<b>-0.1</b>	99	12.9	<b>12.2</b>	<b>-0.7</b>	95	

### 3. バニラエアの客況

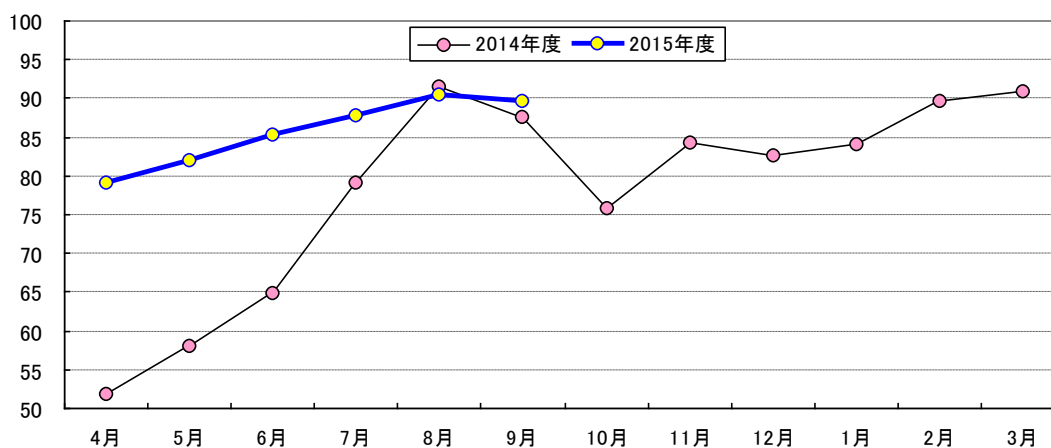
ANA 全額出資の子会社 LCC であるバニラエアの実績は下記のとおり上向いており、当年度は大幅な収支改善が予想される。

前年上期と比べると、旅客数は大幅に増加して 90 万人となった。  
搭乗率も大きく改善して 86% となった。

《図表 5》 バニラエアの旅客実績

	2014上	2015上	差
	千人	千人	千人
国内線旅客数	363	554	191
国際線旅客数	208	343	135
合計	570	897	326
	%	%	ポイント
搭乗率	73.6	86.1	12.5

《図表 6》 バニラエアの搭乗率推移（月別）



以上